

- 令和 5 年度目標： 1. アフターコロナにおける教育保育
2. 年間行事計画の見直しと三大大行事の捉えなおし
3. 園の魅力を伝える広報活動と子育て支援の質の向上
4. 2 歳児保育の充実（ことり教室・満 3 歳児クラスプレ入園）
5. チーム保育の連携と対話重視

今年度ようやくコロナ禍が明け、5 月の 2 類移行を待たず 4 月 1 日よりアルコール消毒を手洗いとし、マスク着用は自由選択とした。子どもたちの生き生きとした表情が戻り、今年度は感染予防にとらわれることのない保育が可能となった。

しかし、乳幼児期を行動制限されて育った子どもたちの体力低下はマスクを外しただけでは改善されず、体力向上につながる保育を意識した 1 年となった。秋の運動会に向けた体力づくり、遠足に行く体力をつけるための散歩やボール遊びなど、工夫して 1 年を過ごした。

情操に欠かせない歌も少しずつ増やし、3 年ぶりに発表会も行った。保護者も喜んでくれたが、子どもたちの表現力や、みんなで作り上げる発表に自信を持たせるようなものにするため、会議が繰り返し行われた。行事は、日常の保育の延長であり、子ども理解を深めることが発表会を通じて一人の子どもが成長する機会となる。意欲的な子どもたちを見ると、成長を感じるとともに、教師もそれにこたえていかななくてはという使命と情熱により動かされていった。様々な行事に新たに向き合い、現状の中で対応できたと感じる。

今年度の行事は感染クラスターとの戦いでもあった。地域には様々な感染症が流行し、免疫のついていない子どもたちは連続して感染症にかかっていった。今後は、三つを避けることなく、集団生活の中で免疫をつけていてもらいたい。

子育て支援については、びよびよ広場の人数上限の拡大、ことり教室、満 3 歳児以前の 2 歳児を 4 名受け入れ。少子化の中低年齢での教育に興味を持つ家庭も多く、ことり教室での実践を積み上げてきた経験を活かし 2 歳児受け入れとなった。職員の配置やクラスの一斉保育（に近い活動）などに課題がみつき、次年度以降の 2 歳児受け入れ拡大に向け実践を積むことができた。未満時の保育には個別に対応が必要となり、園内の移動だけでも難しいため、にじいろ館外構を整備し、小さな中庭に砂場と水遊びできるようデッキを増設した。次年度も 2 歳児に適した環境づくりが課題。今年度はよく取り組んできたと思う。

職員数の減少（感染症などで長く休むことも含め）に対し新卒や経験者の登用が次年度に向け確保できた。多様な子供の受け入れとともにきめ細かな保育が求められるが人材を育て、保育力を高めていくことが喫緊の課題となっている。総合自己評価は A とする。